

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	27人	算数	27人	理科	27人
第5学年	国語	21人	算数	21人	理科	22人

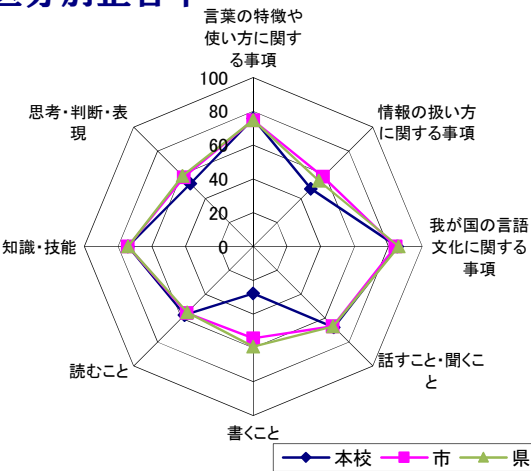
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.7	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	48.2	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.2	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	67.6	66.7	66.9
	書くこと	27.8	54.3	59.3
	読むこと	57.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	74.1	74.1	74.0
	思考・判断・表現	52.6	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

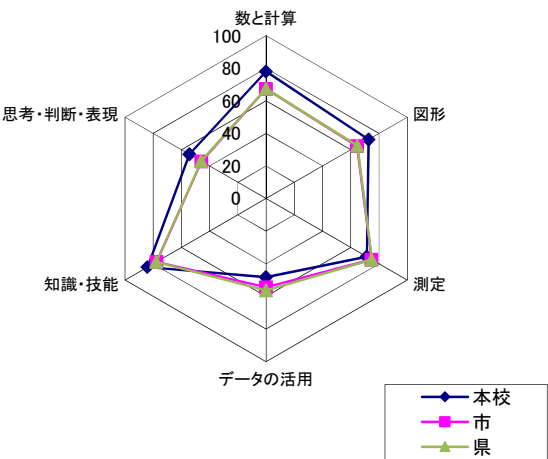
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○漢字を正しく読む設問は、平均正答率は93.8%で力が身に付いてきたと考えられる。また、指示する語句を適切に使うことができる。ローマ字で表記されたものを正しく読む設問では85.2%、74.1%の正答率で、基礎的な力が身に付いてきたと考えられる。 ●漢字を正しく書く設問は平均正答率55.5%で、漢字を正しく書く力が定着することが課題である。	・今後も引き続き漢字練習の課題や小テストなどを計画的に行ったり、間違った漢字の訂正を確実にしたりすることで、漢字の読み書きの力を定着できるようにする。 ・ローマ字で表記されているものを紹介する機会を設けることで、ローマ字で表記されている言葉に着目できるようにする。
情報の扱いに関する事項	●例文を読み、国語辞典に記載されている複数の意味から適する意味を選ぶ設問は、正答率48.2%と市の平均を10.2ポイント下回った。文章を読み、その言葉が示している意味を読み取る力の向上が今後の課題である。	・今後も継続して、国語辞典を使用し、言葉の意味調べの課題に取り組むようにしていく。 ・一人一台端末を活用し、意味調べの他に言葉の正しい表記の確認などに使用していく。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字のへんに関する設問は、85.2%で市と比べると正答率が高く、漢字の部首についての知識を習得できていると考えられる。	・漢字ドリルやデジタル教科書で新出漢字の学習をするとき、今後も継続して漢字の部首や成り立ちなども確認する時間を設ける。また、既習の漢字の部首についても繰り返し復習することで、定着を図る。
話すこと・聞くこと	○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問では96.3%、自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問では85.2%と市の正答率と比べて高く、話し手の中心内容を聞き取ったり、自分の考えを理由を付けてまとめたりする力が付いてきていると思われる。 ●話し手の発言を基に、意見をまとめる設問では、正答率18.5%と市と比べて9.7ポイント低く、話を聞きながら意見をまとめ記述する力の向上が今後の課題である。	・話し合い活動等で発表者が話した内容をクラス全体、または、小グループ等で確認する時間を設け、話し手が伝えたいことを理解しまとめる力を伸ばしていく。 ・話し手が伝えたいことの中心を捉える、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるように指導するとともに、話し手の工夫を捉えながら継続的に伝え合う活動を取り入れ、言語活動の充実を図る。
書くこと	●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く、指定された長さで文章を書くなど、文章内容を理解し、記述で答える設問では、平均正答率27.8%と市と比べても低い。指定された方法で文章を書く、自分の考えとその理由を明確にして書く力の向上と、無回答が多かったので、時間の配分など見直しをもって問題に取り組むことが今後の課題である。	・文字数や段落構成を意識して書く指導を、作文や感想文を書くときに繰り返し行う。 ・文章を書く前に、文章全体の段落構成を考えるように指導していく。 ・文章問題に取り組むときに、問題数や内容などから時間配分など見直しをもって問題に取り組むことができるようにする。
読むこと	○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える設問では、平均正答率が96.3%と市と比べて高く、文章から気持ちを読み取る力が身に付いてきている。 ●文章の内容を説明した文を選ぶ、書き抜く設問では、平均正答率が市より9.4ポイント、また、段落の内容を捉え、前半後半に分ける設問では、市より3.1ポイント低く、文章の内容を捉え、要約する力の育成が今後の課題である。	・物語文の学習では話し合い活動を取り入れ、登場人物や場面の状況から分かったことや、物語文を読んで感じたことを児童同士で共有できるようにしていく。 ・説明文の学習では、叙述を基に段落の内容を捉えたり、中心となる語や文章を見つけて要約することができたりする力を伸ばしていく。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.0	67.3	67.4
	図形	72.6	64.5	64.7
	測定	71.3	74.7	74.9
	データの活用	48.2	54.4	56.4
観点	知識・技能	84.1	77.6	77.8
	思考・判断・表現	54.4	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

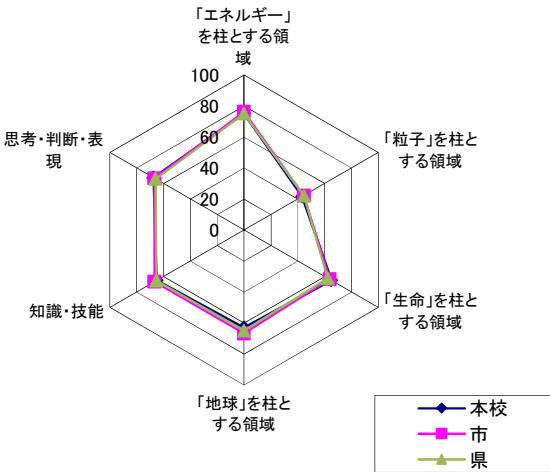
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市・県を大きく上回った。特に、大きな数の表し方や小数のしくみ、わり算の計算では、正答率が100%であり、数直線の読み取りについても高い正答率となっていて、基礎的な学習については定着化が図られている。 ●式の意味を正しくとらえることはできるが、それを自分の言葉で説明することを苦手としている児童が多いことが分かる。	・習熟度別学習やTTを生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・自力解決だけでなく、話し合い活動を取り入れるなど、自分の考えを言葉で伝える機会を設け、自分の言葉で説明する力や表現力の向上に努める。
図形	○平均正答率は、市・県を大きく上回っている。特に、円の半径と直径について正しいものを選ぶ問題については、正答率が100%であり、二等辺三角形の作図についても、92.6%と市・県の平均正答率を上回っていて、理解していることが分かる。 ●円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する問題では、県の正答率を上回っているものの、44.4%と正答率は低く、理由とともに考えを説明することに課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習を活用し、三角形や円を描く作業を通して、コンパスの扱い方に慣れることで、技能の正確性を高めていく。 ・説明マニュアルを用意し、繰り返し練習させることで、作図の仕方を自分の言葉で説明できるようにする。
測定	●平均正答率は、71.3%で、市や県の平均よりも約4ポイント下回った。身近な物の重さの単位についておおよその見当を付ける問題に対して課題が見られる。また、はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題を苦手としている。重さに対しての量感が身に付いていないことが分かる。	・普段から、生活の中で見られる重さや長さに着目させ、単位を換算したり、測定したりして、数学的に表現、処理するよさに気付かせるとともに、測り方の定着を図る。
データの活用	●平均正答率は、市や県の平均よりも6～8ポイント下回った。2つの棒グラフからわかることを選んで答える問題では、正答率が11.1%と市と比較すると、8.6ポイント、県と比較すると12.5ポイント下回っている。2つの棒グラフの1目盛りの大きさの違いなど、様々な情報を正確に読み取ることに課題が見られる。	・算数だけでなく、理科や社会などでも、棒グラフから様々な情報を正確に読み取り、それを基に分かったことや考えたことを言葉に表す学習を意図的に取り入れることで、基礎的な学力を生かして活用する力の定着を図る。 ・対話的な活動を通して、表やグラフを分析して考察し、数理的な処理のよさに気付かせ、生活に活用していく力の定着を図る。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.1	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	43.2	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	65.0	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	63.0	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.1	66.8	65.4
	思考・判断・表現	67.5	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は、市より1.1ポイント上回り、県と同じである。ゴムを伸ばす長さや車の動く距離の設問は、県の正答率より8.1ポイント上回り、実際に操作を行った実験に関しては、定着が図られている。 ●音による物の振るえ方の設問は、県より8.8ポイント下回り、音の伝わり方についての理解に課題が見られる。	・基礎的な用語をおさえ、知識の定着を図る。 ・実験結果などを分析・考察する場面では、文章や図で表す学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を高められるようにする。 ・問題文の長い問題にも触れ、問題を解けるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○形を変えたときの粘土の重さの設問は、県より6.2ポイント上回っている。粘土は図工など他教科でも扱い、具体的な経験と関連付けて思考していることが分かる。 ●平均正答率は、市より1.3ポイント下回り、県より1.3下回っている。特に姿勢を変えたときの体重の重さの設問は、県より6.2ポイント下回り、体験的な経験が少ないことがうかがえる。	・実験結果から、身の回りの現象と関連付けて考えられるよう、一人一人が実際に観察・実験をする活動を十分に確保し、体験的な学習をできるようにする。 ・実験をする上で、条件をそろえるものや変えるものについて確認し、何を比較するのか考えさせながら授業を展開する。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は、市より1.4ポイント上回り、県より2.7ポイント上回っている。草丈の測り方の設問では、県より22.8ポイント上回り、正確に記録をすることが身についているのが分かる。 ●虫眼鏡の使い方の設問では、県より15.2ポイント下回り、実験器具の正しい使い方に課題が見られる。	・実験器具を使って観察するときは、名前や使い方を丁寧に指導し、全員が扱えるようにする。 ・身近な自然事象への関心を高めていけるよう、継続的な観察を行い自分の目で確かめさせる経験を積み、実感をついた理解を図る指導をしていく。
「地球」を柱とする領域	○日なたと日かげの地面の温度変化の設問では、県より8.6上回り、校庭で遊んだりした体験から、身近な経験と関連付けて考える力が向上していることが分かる。 ●平均正答率は、市より3.6ポイント上回り、県より1.9ポイント下回っている。温度計の使い方の設問では、県より16.4ポイント下回り、虫眼鏡の使い方の設問と同様に、実験器具を正しく扱う方法に課題がある。	・実験器具を使って観察するときは、名前や使い方を丁寧に指導し、全員が扱えるようにする。 ・タブレットを有効活用し、時間や時期による変化を画像や動画で示すことで、視覚的理解を促し、思考力の向上を高める。

宇都宮市立中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の復習をしている」の肯定的回答が70.4%で市を11.9ポイント上回った。復習を中心とした宿題や家庭学習を推進してきた成果だと考えられる。また、「学校の復習をしている」と「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」に肯定的回答をしている児童ほど、各教科の平均正答率が高く、今後も復習を中心とした宿題や家庭学習を進めることで、学力の定着を図っていききたい。

○1か月に5冊以上本を読むと答えた児童が64.9%で、市を17.3ポイント上回った。決められた時間に図書室を利用や、読み聞かせ、朝の読書、家読を進めてきた成果と考えられる。各教科の平均正答率を見ても、たくさん読書をしている児童ほど高い結果となっており、今後も様々な取り組みを通して、読書に親しめるような指導をしていきたい。

○「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」や「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答は、いずれも市の肯定的回答を上回った。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」や「ニュースを見ている」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の肯定的回答も市より高い。このことから、身近な出来事に関心が高く、知りたいことを自分で調べている児童が多いことがわかる。今後も、身近な問題から課題を設定し、主体的に学習できるような授業づくりをしていきたい。

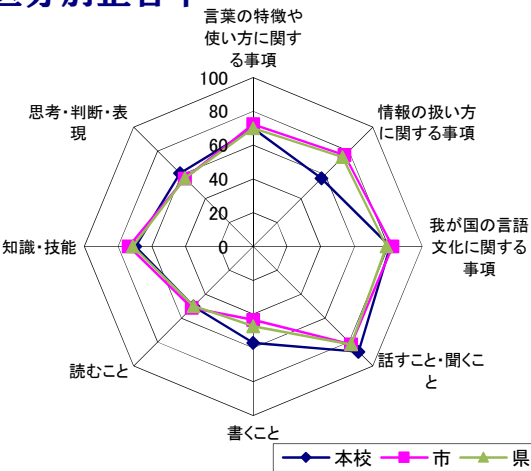
●「家で計画を立てて勉強をしている」に肯定的回答をした児童が62.9%で、市の肯定的回答を3.4ポイントを下回った。「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」に肯定的回答をした児童が市を上回っていることから、本校で実施している家庭学習マイプラン効果的に活用し、時間を決めて学習するとともに、内容についても見通しをもって計画的に学習できるようにしていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答率は54.4%で市や県よりも10ポイント以上も下回った。また、「自分のよさを人のために生かしたい」「自分がもっている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答率は、どちらも市や県よりも10ポイント以上下回った。日々の生活における自分の役割を自覚して前向きな気持ちで活動できるよう、当番活動や係活動など、児童の個性を生かせるような活動や場面を意図的に増やし、児童の自己肯定感向上につなげたい。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	69.8	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	57.1	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	81.0	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	88.1	81.9	82.0
	書くこと	57.1	43.5	47.2
	読むこと	50.0	51.4	49.8
観点	知識・技能	69.7	73.6	71.3
	思考・判断・表現	61.3	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

で

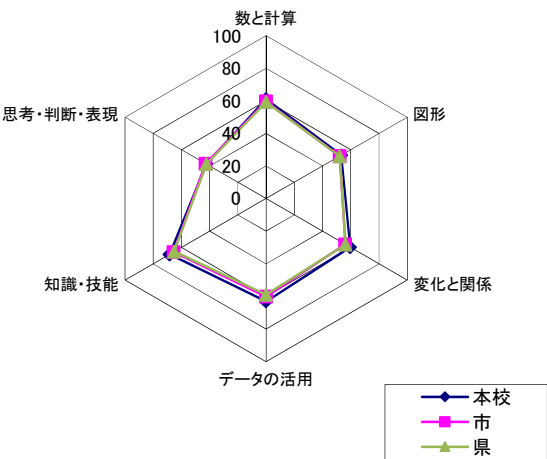
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○漢字を読む設問では、正答率90%以上で漢字を正しく読む力が身に付いてきたと思われる。 ●漢字を書く設問では、正答率が33.3%で市の平均を22.6ポイント下回る箇所があり、無回答も見られる。漢字を書く力に課題が見られる。	・引き続き、AI型ドリルやデジタル教科書の教材コンテンツを活用し、漢字の読み方、書き順などを主体的に確認できる学習環境を整えていく。 ・朝の学習、授業、家庭学習で継続的に漢字を書く機会を設定するようにする。
情報の扱いに関する事項	●漢字辞典の使い方に関する設問では、正答率57.1%で市の正答率より19.3ポイント下回っており、漢字辞典の使い方の習得が課題である。	・漢字辞典の使い方を再度確認し、定期的に学習の中で漢字辞典を取り入れるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざに関する設問では、正答率81.0%で県の正答率を2.1ポイント上回っており、ことわざの意味を理解していると思われる。	・引き続き、学校図書やインターネットを活用し、ことわざに触れる機会を継続的に設定する。また、ことわざをはじめとする言語文化に興味関心をもつことができるようにする。
話すこと・聞くこと	○話合いの内容を聞き取り、意見の共通点に着目して司会者の発言に適する内容を書く設問では、正答率81.0%で市の正答率を10.3ポイント上回った。話合いの内容をとらえる力、意見の共通点に着目する力が付いてきていると思われる。	・引き続き、小グループでの話合い活動を継続して行い、互いに意見を聞き合う活動を通して、自分と友達の意見の共通点と相違点に着目し、意見をまとめる力の向上を図る。
書くこと	○書くことに関する設問すべてで市の平均正答率より12ポイント以上上回った。指定された長さで文を書くこと、段落の役割を理解し2段落構成で文章を書くこと、内容の中心を明確にし事実を伝えたり自分の考えを書いたりすることができていた。反面、無回答も19.1%あったので、書くことについて個別の指導が必要であると思われる。	・文字数や文章構成など、指定された条件で文章を書く活動を、国語だけでなく様々な学習場面で継続して行うことで書く力の向上を図る。また個別指導を十分に行う。
読むこと	○説明文を読み、要約された文章の空欄にあてはまる語を書き抜く設問では、平均正答率71.4%で市の平均より7.2ポイント上回った。情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約することができていた。 ●段落の内容について適するものを選ぶ設問では、平均正答率が38.1%と市の平均より13.5ポイント下回った。叙述を基に文章の内容を捉える力の育成が課題である。	・朝の読書時間など、物語や説明文を含む本を読む時間を確保するなど、本に触れる機会を設定していく。 ・説明文において、段落ごとの内容を読み取るステップとして、中心となる文や語を見つけながら段落の内容を要約できるよう、段階的に説明文を読み取る力の育成を図る。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.0	59.7	59.2
	図形	53.2	52.1	52.1
	変化と関係	59.5	56.1	56.3
	データの活用	63.1	60.1	58.9
観点	知識・技能	68.4	65.5	65.1
	思考・判断・表現	42.4	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

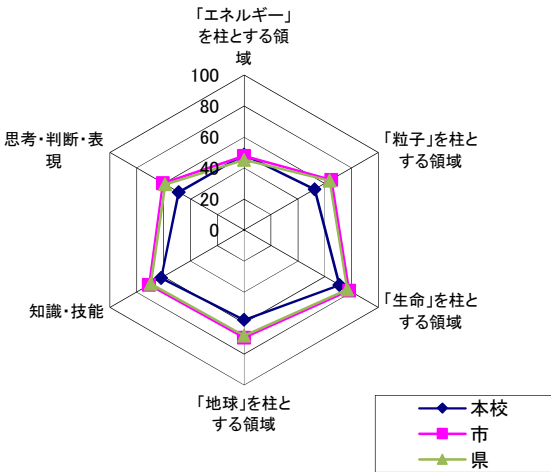
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、61.0%と市・県の平均をやや上回った。小数のしくみについての問題では、正答率が100%だった。 ●示された考えをもとに、小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明する問題では、市や県の平均よりは、上回っているものの、19.1%と低い正答率であった。問題を読み取り、自分の言葉で説明することに課題が見られる。	・習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・宿題や小テストなどで繰り返し問題に取り組み、基礎的な計算力の向上に努める。 ・自分の考えをノートにまとめたり、友達の意見を取り入れたりするなどの学習を意図的に設け、自分の言葉で説明する力の向上を図る。
図形	○平均正答率は、53.2%と市・県の平均をやや上回った。特に、ひし形を作図では、90.5%と市や県の平均よりも約20ポイント上回った。 ●角の大きさを求める問題では、県や市の平均正答率を下回った。分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取ったり、180度より大きい角の大きさを求めたりすることを苦手としていることがわかる。面積についても、単位の関係を説明する問題で、平均正答率が23.8%と市の平均正答率よりも、4.9ポイント下回っており、複合図形の面積を求める問題でも、12ポイント下回っている。いろいろな面積	・どの角に着目して課題解決をしていくのかを考えさせながら、様々な問題に継続的に取り組ませていく。 ・図形の特徴や性質、きまりなどの既習事項を確認して、様々な問題に取り組ませることで定着を図る。
変化と関係	○平均正答率は、59.5%と市・県の平均をやや上回った。表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題では、90.5%と市や県の平均正答率を9ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係について分かることを自分の言葉で説明することに課題が見られる。	・割合を示す表現の中から、基準量や比較量を明確に捉えさせ、筋道を立てて考えたり、問題に取り組ませたりして定着を図る。そして、その考えを自分の言葉で表現する場面を増やし、説明する力の育成を図る。
データの活用	○●平均正答率は、63.1%と市・県の平均をやや上回った。二次元表を使った問題では、問題文から分かったことを表にまとめることができるが、それを応用し、条件に当てはまる数を求めることに課題が見られる。	・算数だけでなく、理科や体育などでも、表から様々な情報を正確に読み取り、それをもとに分かったことや考えたことを言葉に表す学習を継続的かつ日常的に実施していくことで、基礎的な学力を生かして活用する力の定着を図る。 ・数学的活動を通して、表やグラフを分析して考察し、数理的な処理のよさに気付かせ、生活に活用していく力の

宇都宮市立中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	48.5	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	52.5	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	70.9	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	58.0	69.5	68.1
観点	知識・技能	61.8	70.8	69.5
	思考・判断・表現	48.8	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○並列つなぎの名称を答える設問では、県の正答率よりも5.8ポイント上回った。乾電池のつなぎ方とその名称の理解ができている。 ●電流が大きくなる回路を選ぶ設問では、県の正答率よりも4.4ポイント下回った。電流が大きくなる回路を理解し、豆電球が明るく光る回路を推測する力が定着していないと考えられる。	・実験器具の正しい使い方と用語をおさえ、知識の定着を図る。 ・実験器具を扱い方の理由も指導し、正しい使い方の理解を促すようにする。
「粒子」を柱とする領域	○あたためられた空気の動き方に関する設問では、県の正答率よりも0.8ポイント上回った。熱気球が浮かび上がる仕組みが、あたためられた空気の性質を利用していることを理解している。 ●示温インクの色の変わり方を選ぶ設問では、県の正答率よりも21ポイント下回った。水のあたたまり方の理解が十分とは言えない。	・実験結果などを分析・考察する場面では、文章や図で表す学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を高められるようにする。 ・問題文の長い問題にも触れ、問題を解けるようにする。
「生命」を柱とする領域	○関節の名称を答える設問では、県の正答率よりも3.5ポイント上回った。関節についての理解ができている。 ●腕を曲げたときの筋肉の様子を選ぶ設問では、県の正答率よりも14.9ポイント下回った。腕を曲げたときの筋肉の緩みと伸びの様子を十分に理解しているとは言えない。	・基礎・基本的な用語をおさえ、知識の定着を図る。 ・実験結果などを分析・考察する場面では、文章や図で表す学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を高められるようにする。
「地球」を柱とする領域	○水蒸気の名称を答える設問では、県の正答率よりも6ポイント上回った。冷やしたペットボトルについて水滴が、空気中の水蒸気に変化したものだを理解している。 ●数時間後の星の並び方と見える位置に関する設問では、県の正答率よりも25.3ポイント下回った。数時間後の星の並び方と見える位置の理解が未定着であることがうかがえる。	・一人一台端末を有効活用して、時間や時期による変化を画像や動画で示すことで視覚的理解を促し、思考力の向上を高める。

宇都宮市立中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「勉強していて、面白い、楽しいと思うことがある」の肯定回答率が90.9%で市の平均よりも6.2ポイント以上上回った。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定回答率が86.4%で、市の平均よりも20ポイント近く上回った。調べることが好きで、疑問に思ったことがあると、インターネットや本を活用して解決することで、知識を得る喜びを知り、学習への意欲を高めていると考えられる。本校で取り組んでいる主体的に取り組む、共に学び合う児童の育成に対する成果が表れたと考えられる。今後も、児童の学びを深めることのできる指導をしていきたい。	
○「人と話すことは楽しい」の肯定回答率が100%であった。また、「家の人と学校でのできごとについて話をしている」の肯定回答率が90.9%と高く、人とのコミュニケーションをとることができている。今後も、日常的に話す場を設けていきたい。	
●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定回答率は40.9%で市の平均よりも30ポイント近く下回った。家で復習するなど家庭学習が定着していないと考えられる。自主学習の内容を示したり、マイプランを使って家庭学習の計画を見直したりし、家庭と連携しながら家庭学習の定着を図る。	
●「自分には、よいところがあると思う」では、肯定回答率が81.8%の一方で、どちらかといえばいいと回答した児童が18.2%いる。道徳や学級活動を活用して自分のよさを再確認し、日常生活で互いのよさ認め合う機会を設けていきたい。	

宇都宮市立中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること	
重点的な取組	取組の具体的な内容
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「知りたい」「解決したい」という探究的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。
考えを広げ深めるための学び合い活動の工夫	対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考えの交流から自分の考えを広げたり、深めたりできるような指導を目指している。 また、学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。
基礎的な学習内容の定着のための取組	少人数指導や、朝の学習の時間、AIDリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。 また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと		
調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と答えている児童が4・5年生とも60%を超えており、市や県の平均も上回っている。	言語活動の充実	・話し合うために、自分の考えを持つための時間を十分に確保する。 ・話し合いを通して深まった自分の考えを振り返り活動などで記録する。 ・教師が児童の学びをコーディネートしていく。 ・ICT機器を活用して構成を再構築したり、友達の考えを参考にしたりしながら、自分の考えを文章にまとめられるようにする。